



2026年3月期 決算概要

シスメックス株式会社
2026年5月14日

Together for a better
healthcare journey

Disclaimer

- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載されている製品等の情報は、薬事認可取得の有無に関わらず宣伝広告および医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- ・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

前中期経営計画の進捗を率直に評価し、選択と集中、原点回帰のもと、 ダイアグノスティクス事業の「強さ」と「稼ぐ力」を再強化

- 新たな経営体制下で迎える最初の決算説明の場
- 前中期経営計画は当初目標を下回り、中国の医療費抑制政策による市場の構造的変化、一部新規領域において計画と実績の乖離など、外部環境・当社対応、双方の要因を率直に認識
- 以下3つの方針のもと企業価値の向上に向けた取り組みを加速

選択と集中 規律ある資本配分

事業ポートフォリオを規律あるハードルレートのもと見直し、将来的な収益性が高い事業へ資源を優先配分

原点回帰

お客様の期待に応える新製品の投入、DXによる新たな価値創出を通じて、ダイアグノスティクス事業を再強化
収益性・資本効率・キャッシュ創出力を改善

株主還元の拡充

累進配当の継続に加え、自己株式取得を組み合わせた株主還元を実施

Index

1. エグゼクティブサマリー
2. 2026年3月期 決算概要
3. 中期経営計画において重点的に取り組むテーマ
4. 2027年3月期 業績予想

(補足資料)

1. エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー (2026年3月期実績)



米州・EMEA・APは堅調に推移するも、中国の医療費抑制政策の継続影響および減損損失の計上により、減収減益

売上高

5,000億円 前年同期比 Δ 1.7%

営業利益

518億円 前年同期比 Δ 40.8%

当期利益*

354億円 前年同期比 Δ 33.9%

*親会社の所有者に帰属する当期利益

減収減益の主要因

■ 中国の医療費抑制政策（必要最小限の原則・代理店在庫調整等）の影響継続

中国売上 Δ 24.9%（前年同期比、現地通貨ベース）

■ 新規領域の連結子会社ののれん減損損失の計上 計112億円

ダイアグノスティクス事業の競争力は維持

■ 中国を除く売上高（円ベース）前年同期比 +5.1%

■ 米州 +7.3% / EMEA +5.2% / AP +6.4%（現地通貨ベース）

■ 中国へマトロジー検査需要は維持

為替の影響

✓ 売上高 +102.4 億円 (Δ 3.7%)

✓ 販管費 +46.3 億円 (+5.9%)

✓ 営業利益 +0.9 億円 (Δ 40.9%)

()内は為替影響を除いた前年同期比

キャッシュ創出

営業CF

738億円

前年同期比 Δ 16%

フリーCF 223億円

資本効率・効率性

ROE

7.3%

ROIC 7.6% / CCC 205日

株主還元

年間配当

38円

前期32円から増配 +18.8%

累進配当方針を堅持（配当性向67.3%）

エグゼクティブサマリー（2027年3月期業績予想）



各地域の成長を軸に中国の不確実性を織り込むも、対前年増収・増益を計画

売上高

5,350 億円 前年同期比 **+7.0%**

営業利益

580 億円 前年同期比 **+11.9%**

当期利益*

360 億円 前年同期比 **+1.5%**

*親会社の所有者に帰属する当期利益

売上高の前提（+7.0%）

- 中国（△約20%）
「必要最小限の原則」に加え「検査価格統一」影響を織り込み
- 米州 **+6%** / EMEA **+7%** / AP **+13%**（現地通貨ベース）と堅調に推移
- 日本 日本電子株式会社からの**生化学事業承継**が寄与（生化学分野：+100億円）

営業利益の前提（+11.9%）

- 中国減収による粗利減を、ダイアグノスティクス事業の成長と一過性（のれんの減損損失の計上）の解消で補完
- 米国相互関税、中東情勢悪化に伴う原材料・ロジスティクスコスト増加を想定

重点的に取り組むテーマ

- **ダイアグノスティクス事業の競争力強化（地域展開＋フラグシップ投入）**
- **血液凝固分野の展開加速、新興国における事業拡大**
- **収益性改善に向けたバリューチェーン改革**
- **事業ポートフォリオの見直し（既に新経営体制下で議論開始）**

想定為替レート

1USD **155**円

1EUR **180**円

1CNY **22.0**円

キャッシュ創出 営業CF

880 億円 前年同期比 **+19%**

フリーCF 270億円（+21%）

資本効率・効率性 ROE

7.3% 前年同期比 **±0 pt**

ROIC 7.5%（△0.1 pt）

CCC 200日（△5日）

株主還元 年間配当予想

40円

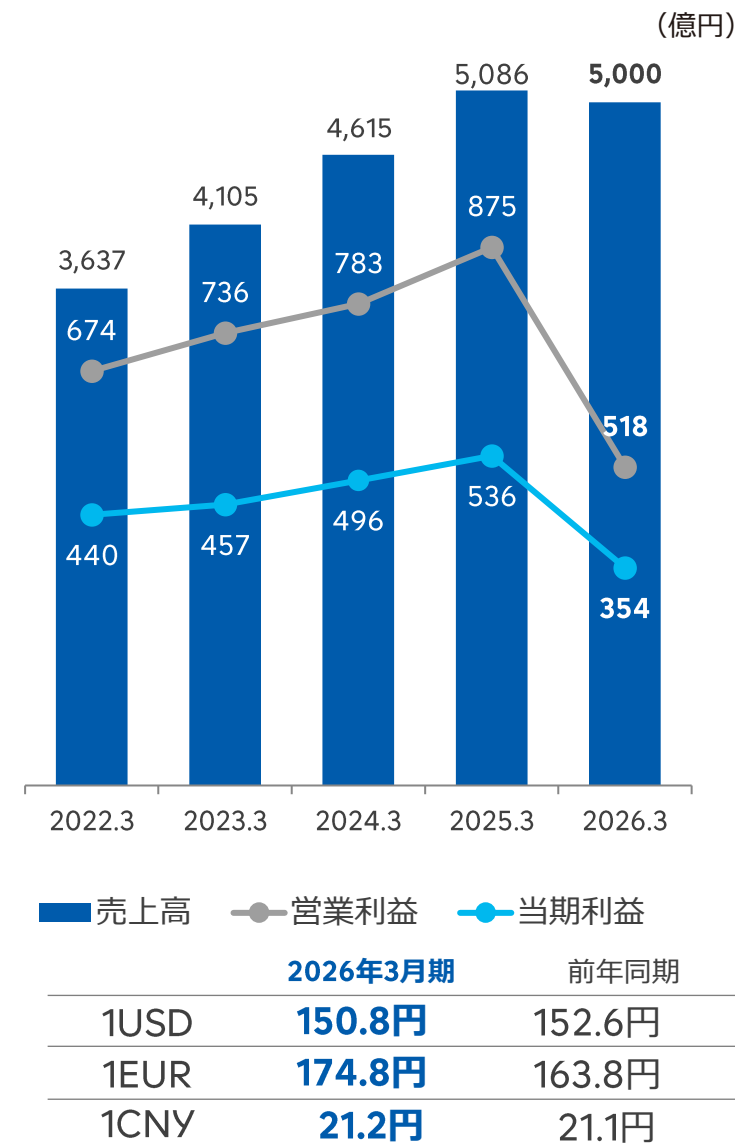
前期38円から **+5.3%**
累進配当方針を堅持

2. 2026年3月期 決算概要

決算総括（対前年）

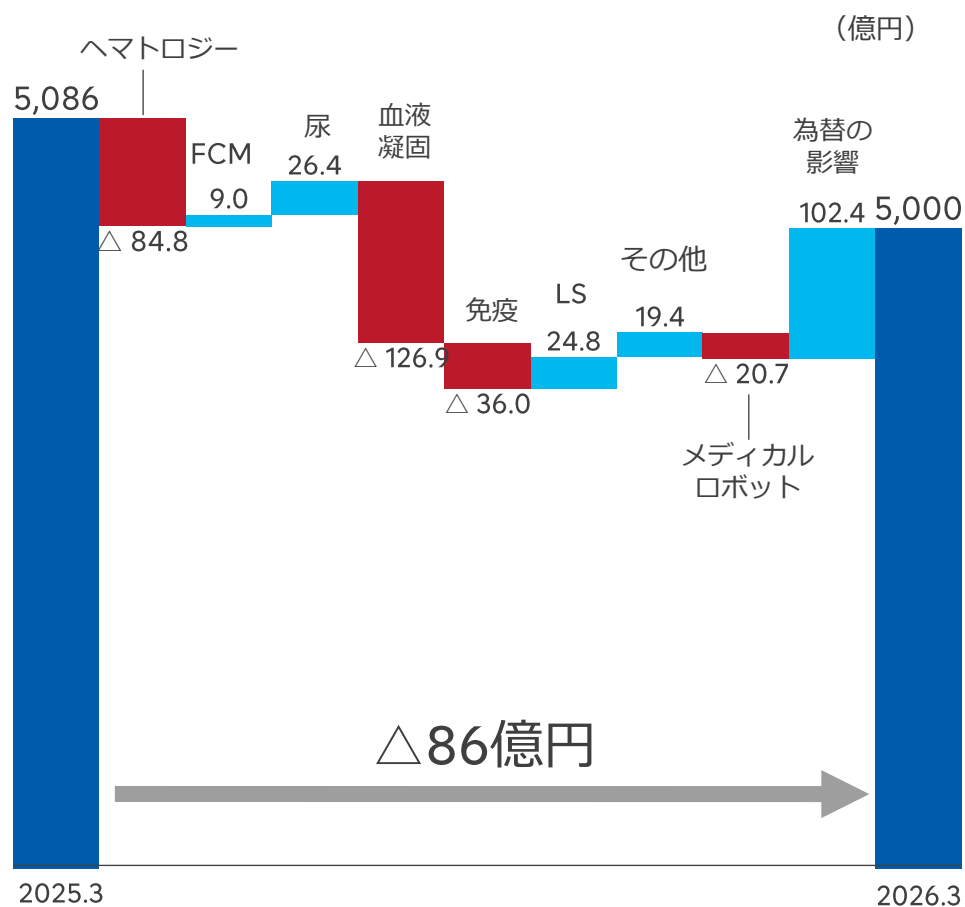


(億円)	2026年3月期		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	5,000.0	100%	5,086.4	100%	98.3%
売上原価	2,443.2	48.9%	2,366.6	46.5%	103.2%
販売費及び 一般管理費	1,643.5	32.9%	1,508.4	29.7%	109.0%
研究開発費	291.6	5.8%	314.5	6.2%	92.7%
その他の営業損益	△103.3	△2.1%	△20.8	△0.4%	-
営業利益	518.3	10.4%	875.8	17.2%	59.2%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	354.5	7.1%	536.6	10.6%	66.1%



売上高の増減要因（事業別・分野別）

事業別・分野別売上高



(億円)	2026年3月期		前年同期比		
	実績	構成比	円ベース	為替影響を 除く	中国を除く (円ベース)
売上高	5,000.0	100.0%	98.3%	96.3%	105.1%
ヘマトロジー	2,994.0	59.9%	98.7%	97.2%	103.3%
FCM	46.9	0.9%	128.9%	125.0%	123.9%
尿	440.7	8.8%	107.9%	106.5%	117.5%
血液凝固	724.0	14.5%	87.9%	84.6%	103.3%
免疫	223.1	4.5%	86.3%	86.1%	93.3%
生化学	29.1	0.6%	80.3%	80.5%	88.7%
ライフサイエンス	249.6	5.0%	117.1%	111.7%	117.1%
その他	259.2	5.2%	115.7%	111.8%	115.8%
ダイアグノスティクス 事業	4,967.0	99.3%	98.7%	96.7%	105.7%
メディカルロボット 事業	33.0	0.7%	61.5%	61.4%	61.5%

売上高の増減要因（地域別・品目別）

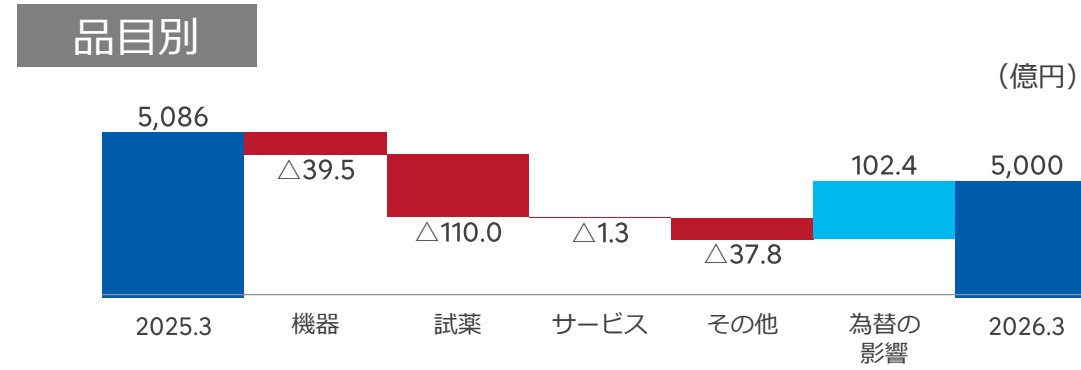
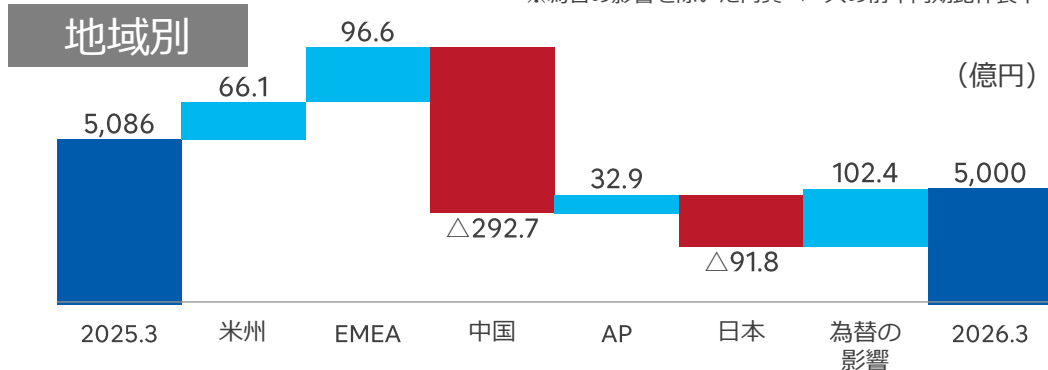
米州、EMEA、APは堅調に伸長も、日本・中国の影響により減収

(億円)	2026年3月期		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	5,000.0	100.0%	98.3%	96.3%*
米州	1,392.5	27.9%	106.2%	107.3%
EMEA	1,580.3	31.6%	112.6%	105.2%
中国	894.6	17.9%	75.8%	75.1%
AP	546.4	10.9%	106.4%	106.4%*
日本	586.0	11.7%	86.5%	-
機器	1,032.3	20.6%	99.0%	96.2%*
試薬	3,079.2	61.6%	98.1%	96.5%*
サービス	692.7	13.9%	101.3%	99.8%*
その他	195.7	3.9%	88.4%	82.9%*

地域別の主な増減要因 *現地通貨ベース

米州	<ul style="list-style-type: none"> 北米は好調に推移、ブラジルで2桁伸長するなど中南米も高い伸長となり、増収
EMEA	<ul style="list-style-type: none"> 主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し中東の減収を補い、増収
中国	<ul style="list-style-type: none"> 医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化による在庫調整も拡大し、減収
AP	<ul style="list-style-type: none"> インドをはじめ、主要国で高い伸長を継続し、増収（4Q単では対前年+17.8%の大幅増収）
日本	<ul style="list-style-type: none"> システム切り替えに伴う前年4Qの試薬売上前倒しの影響に加え、前年のヘマトロジー機器好調の反動、病院経営の悪化に伴うメディカルロボット事業の減収などにより、減収

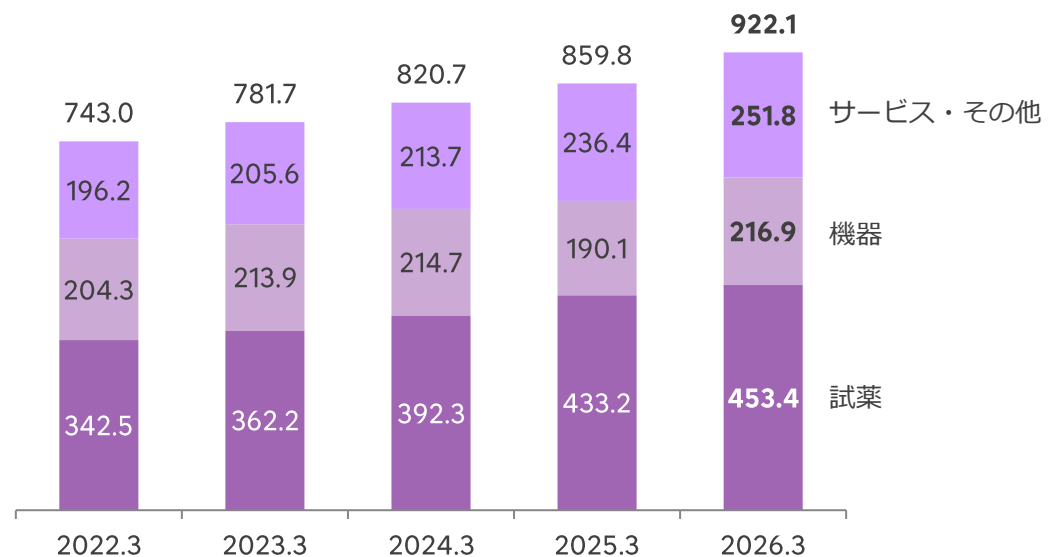
※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



米州 (地域別)

(Million USD)	2026年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	922.1	859.8	107.3%	106.2%
機器	216.9	190.1	114.1%	113.2%
試薬	453.4	433.2	104.7%	103.5%
サービス・その他	251.8	236.4	106.5%	105.3%

売上高推移 (Million USD)



北米は好調に推移、ブラジルで2桁伸長するなど中南米も高い伸長となり、**増収**

● 機器

- ✓ 設置が順調に進み、ヘマトロジー・尿分野が好調に推移
- ✓ 特に尿分野では北米・中南米共に大規模施設への設置が進む

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿分野が順調に推移し、増収
- ✓ 血液凝固分野は、機器伸長に伴い、今後の増収を見込む
- ✓ アミロイドβ検査試薬も堅調に推移 (売上高9.3 MUSD、対前年+39.3%)

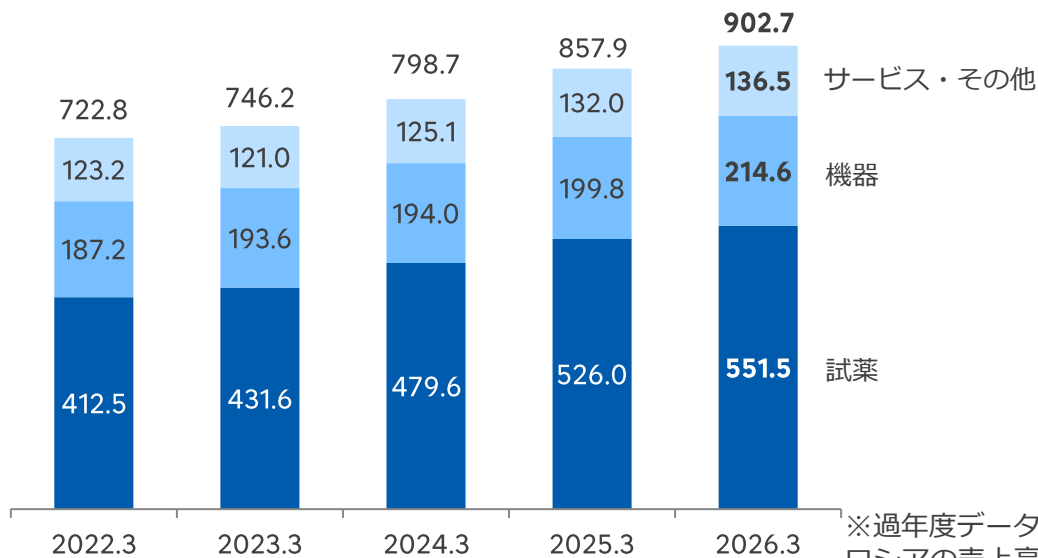
EMEA (地域別)



(Million EUR)	2026年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	902.7	857.9	105.2%	112.6%
機器	214.6	199.8	107.4%	115.4%
試薬	551.5	526.0	104.9%	112.0%
サービス・その他	136.5	132.0	103.5%	110.6%

主要国および東欧においてヘマトロジー・尿分野が好調に推移し、中東の減収を補い、**増収**

売上高推移 (Million EUR)



※過年度データを含め、ロシアの売上高を除く

● 機器

- ✓ 直販化によりイタリアでヘマトロジー・尿分野が好調に推移、フランスでは検査センターでのXR™シリーズの大型案件を獲得
- ✓ 血液凝固分野は、ドイツ・フランスなどで大型案件を獲得し、増収

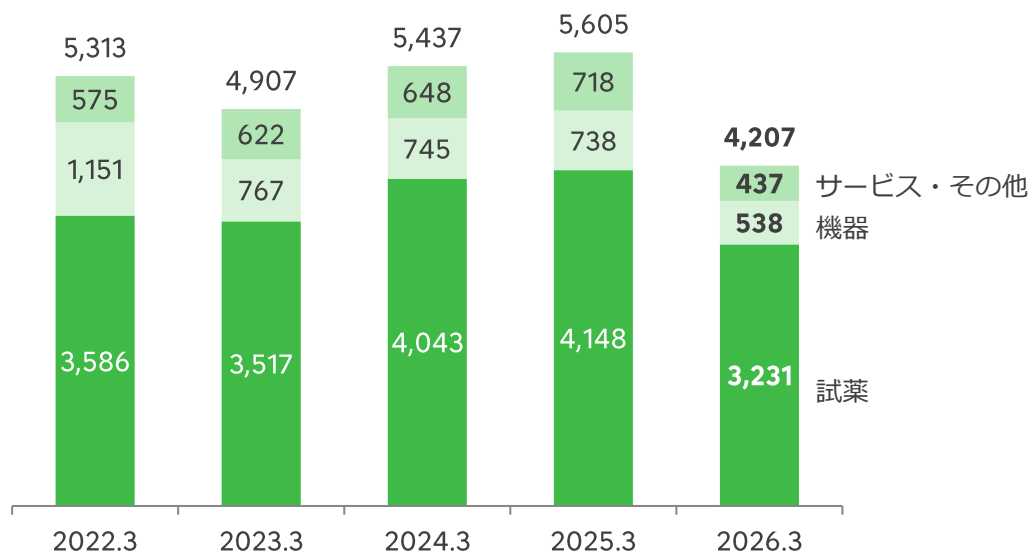
● 試薬

- ✓ 機器設置台数増加に伴い尿分野が好調に推移するなど、全分野で増収
- ✓ 血液凝固分野も機器稼働台数の増加に伴い、ドイツ、エジプトなどで伸長

中国（地域別）

(Million CNY)	2026年3月期	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	4,207.2	5,605.4	75.1%	75.8%
機器	538.1	738.3	72.9%	74.2%
試薬	3,231.6	4,148.4	77.9%	78.6%
サービス・その他	437.4	718.6	60.9%	61.7%

売上高推移 (Million CNY)



医療費抑制政策（必要最小限の原則など）の影響が拡大、代理店の経営悪化による在庫調整も継続し、**減収**

● 機器

- ✓ 設備投資意欲の低下、代理店の在庫調整などにより、減収
- ✓ 血液凝固分野はロックダウン生産効果により前年度下期以降堅調に推移し、増収

● 試薬

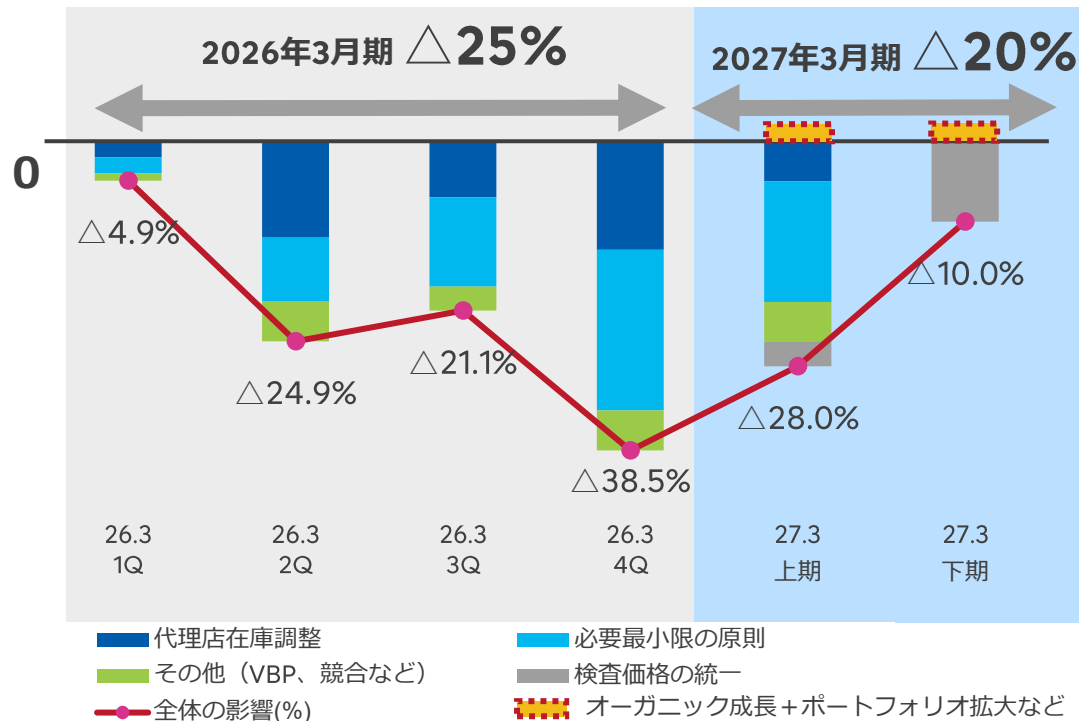
- ✓ 必要最小限の原則の影響拡大により、特に血液凝固分野の検査数が減少
- ✓ ヘマトロジー分野においても、代理店の経営悪化に伴う在庫調整の影響により、減収

中国における今後の見通し

2027年3月期は通期にわたりマイナス成長が継続
「検査価格の統一」の不確実性を織り込むも、状況を継続注視

売上高 対前年同期比 (イメージ)

(単位: pt)



2026年3月期実績：第4四半期は見通し通りに推移

- 必要最小限の原則、代理店 在庫調整の影響が継続

2027年3月期の見通し

- 新たに「検査価格の統一」影響を織り込む
※状況を注視し、重要な変化があればタイムリーに開示

今後の取り組み

- 3級病院向け直販体制のさらなる強化
- ダイアグノスティクス事業の製品ポートフォリオ拡充

中国におけるヘマトロジー検査需要は維持されており、当社のブランドバリューは健在
中長期的には、付加価値・直販体制強化により競争力を再構築

中国における検査市場の環境変化

短期は構造調整局面も、中長期では付加価値向上・直販強化により競争力を再構築

■ 市場構造の変化

これまで

検査機器は収益を生み出すツール

検体処理能力・耐久性重視

検査は病院の収益源

- ・ 検査項目・件数の増加
- ・ 検査価格は地域・病院単位で設定

持続可能な医療体制への変革

- ✓ 集中購買
- ✓ 必要最小限の原則
- ✓ 検査価格の統一

これから

検査機器は生産性・患者満足度向上のツール

課題解決・付加価値重視へ

検査は病院のコストセンター

ネガティブ影響

- ・ コスト圧力の増大

ポジティブ影響

- ・ ワークフローの高度化・複雑化
 - ・ 検査業務の集約化・外注化など
- ⇒ システム製品の需要増加期待

■ シスメックスの強み

先進国での
生産性向上の
ノウハウ

異常検体の
検出能力および
学術的サポート

質の高い
カスタマーケア



China Medical Industry Data Conferenceにおいて顧客満足度1位を獲得（2026年3月）

「品質」と「サービス」による顧客満足度の獲得を最優先

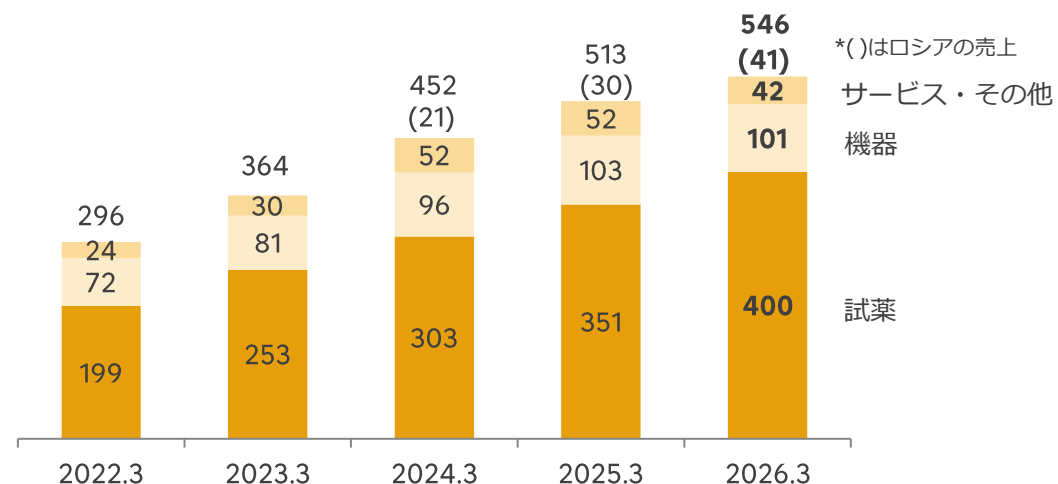
直販強化
シスメックスの
強みを顧客に
直接届ける

AP（地域別）

(億円)	2026年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	546.4	513.3	106.4% (106.4%)
ダイアグノスティクス事業	544.7	507.7	107.3%
機器	101.6	103.6	98.0%
試薬	400.1	351.1	113.9%
サービス・その他	42.9	52.8	81.3%
メディカルロボット事業	1.7	5.6	30.5%

*()は為替の影響を除いた場合

売上高推移（億円）



*()はロシアの売上

*ロシア売上高を含まない

ロシア売上高を含む

インドをはじめ、主要国で高い伸長を継続し、**増収**
(4Q単では対前年+17.8%の大幅増収)

ダイアグノスティクス事業

● 機器

✓ インドでの大型案件獲得により伸長も、インドネシアの減収を補えず 減収

● 試薬

✓ インドにおいてヘマトロジー分野の小型機器の稼働台数増加により伸長
✓ フィリピン、マレーシアなど東南アジアを中心に好調に推移し、全分野で増収

メディカルロボット事業

✓ 累計導入台数：4台
✓ シンガポール、マレーシアともに150症例以上実施されるなど、手術数は順調に増加

日本（地域別）

(億円)	2026年3月期	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	586.0	677.8	86.5%
ダイアグノスティクス事業	554.7	629.7	88.1%
機器	100.2	136.0	73.7%
試薬	344.0	391.4	87.9%
サービス・その他	110.4	102.3	107.9%
メディカルロボット事業	31.3	48.0	65.2%

前年度のヘマトロジー機器好調の反動や、病院経営の悪化に伴うメディカルロボット事業案件の減少もあり、**減収**

ダイアグノスティクス事業

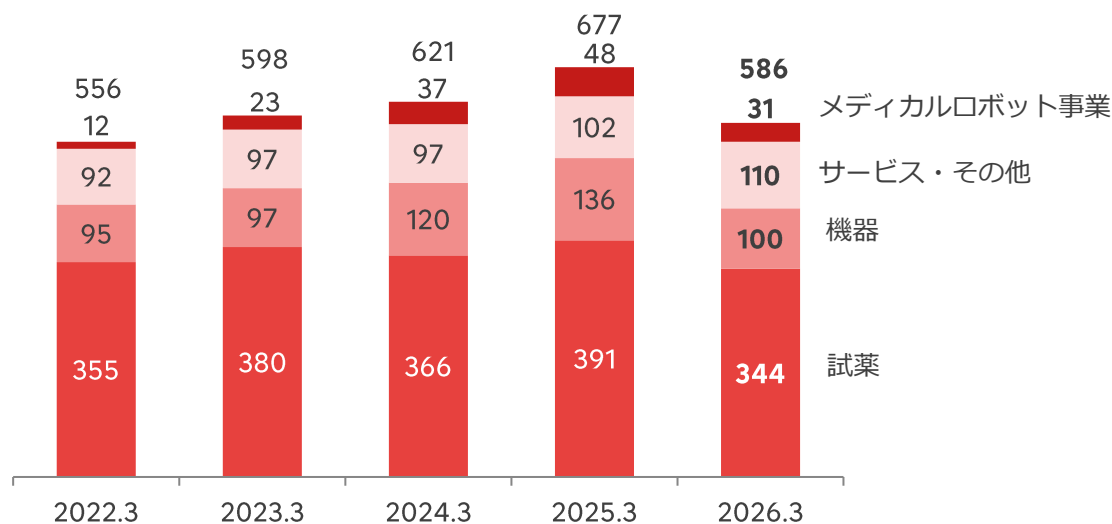
● 機器

- ✓ 前年度のヘマトロジー分野旧製品更新の反動により、減収
- ✓ 尿分野は機器更新、新規設置も好調に推移

● 試薬

- ✓ システム切り替えに伴う前年4Qの試薬売上前倒しの影響により、減収
- ✓ 複数の新規免疫試薬項目を販売開始

売上高推移（億円）

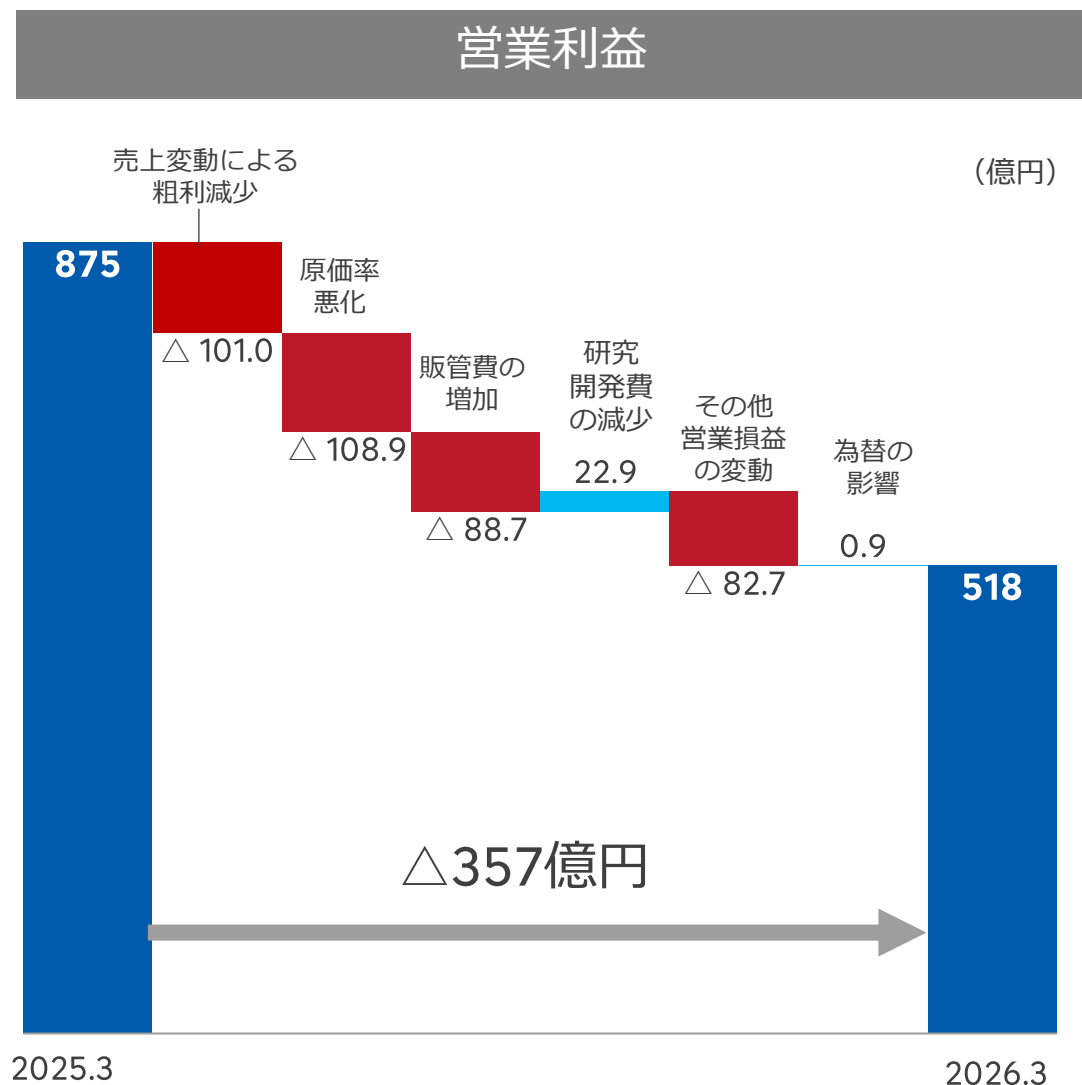


メディカルロボット事業

- ✓ 病院の設備投資が弱く設置実績は前年度を下回る
 - 今期導入台数：20台（グローバル21台）
 - 累計導入台数：106台（グローバル110台）

営業利益の増減要因（対前年）

※下記数値・コメントは為替の影響を除く



- 売上変動による粗利減少：△101.0億円
 - 原価率悪化：△108.9億円（2.2pt悪化）
 - ✓ 悪化要因：1Q 発生の棚卸資産の評価額見直し 0.4 pt、
 プロダクトミックス 0.4 pt、
 サービスコストの悪化 0.6 pt、関税影響 0.4 pt
 ロジコストの悪化 0.2pt
 - 販売管理費の増加：△88.7億円
 - ✓ 労務費：直販地域拡大に伴う人員増や単価増：△25億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：△13億円
 - ✓ 償却費：基幹システム稼働に伴う増加：△29.5億円
 - 研究開発費の減少：22.9億円
 - ✓ 製品開発への投資継続も、研究開発テーマの精査などにより減少
 - その他営業損益の変動：△82.7億円
 - ✓ のれんの減損損失の計上 △112億円
-
- 為替の影響：+0.9億円

新経営体制下での事業計画見直しに基づき、収益性・資本効率を重視した資源配分を再設計

- 中期経営計画の方針および新経営体制の資本配分規律に沿って、各連結子会社の事業計画を再評価
- 取得時に認識したのれんについて、将来キャッシュフロー見直し・事業環境の変化・戦略変更などを踏まえ、全額減損を計上

Sysmex Partec GmbH

- FCM分野の開発・製品製造

減損金額：15億円

Oxford Gene Technology IP Limited

- LS分野の開発・製品製造
(FISH, NGSのゲノム解析事業)

減損金額：27億円

Sysmex Astrego AB

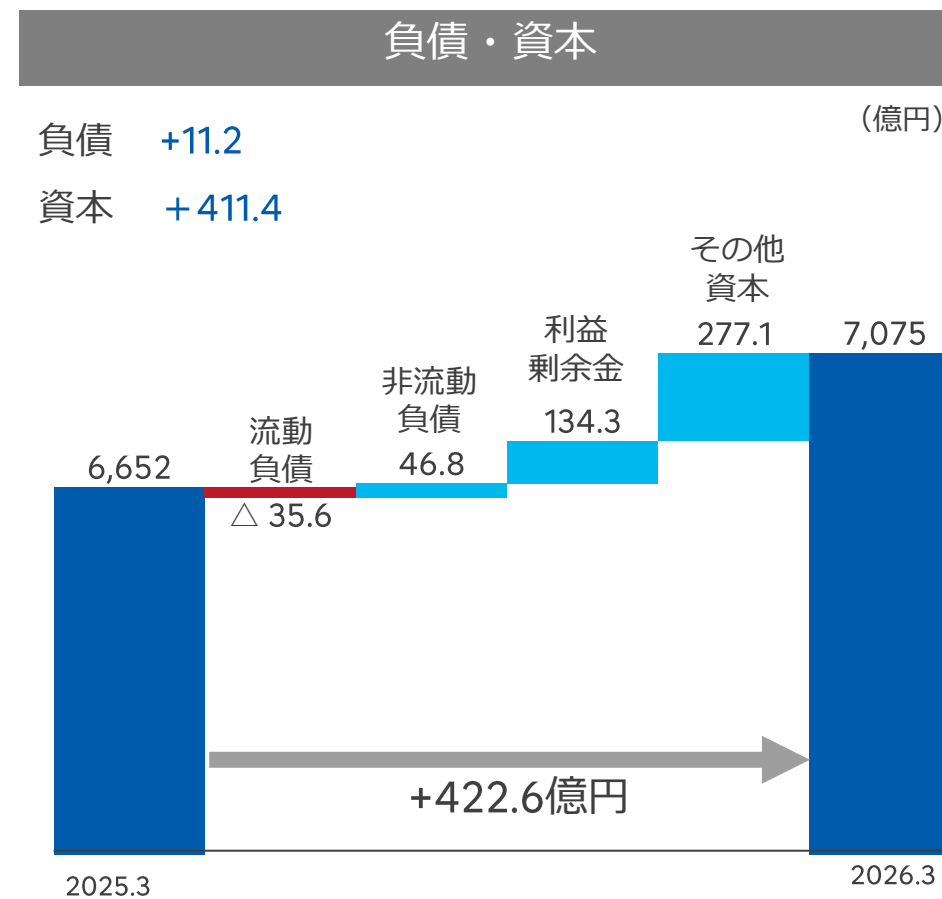
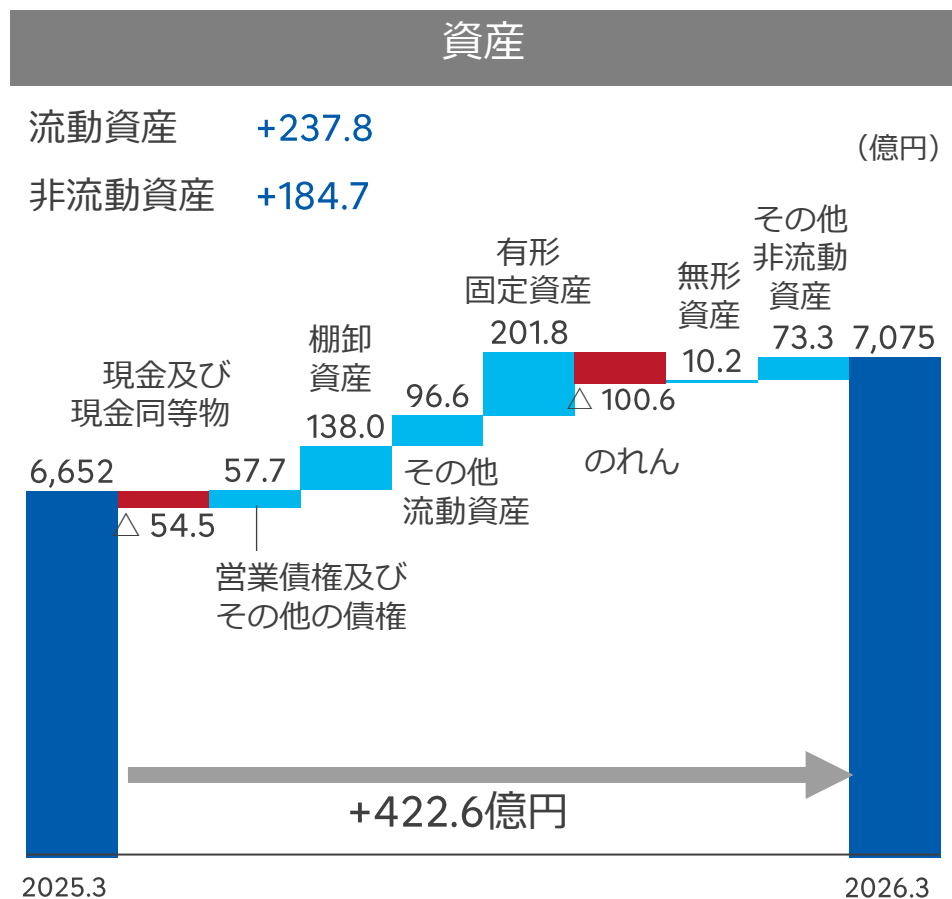
- 薬剤感受性を迅速判定する
プライマリケア市場向け
検査システムを開発・製造

減損金額：70億円

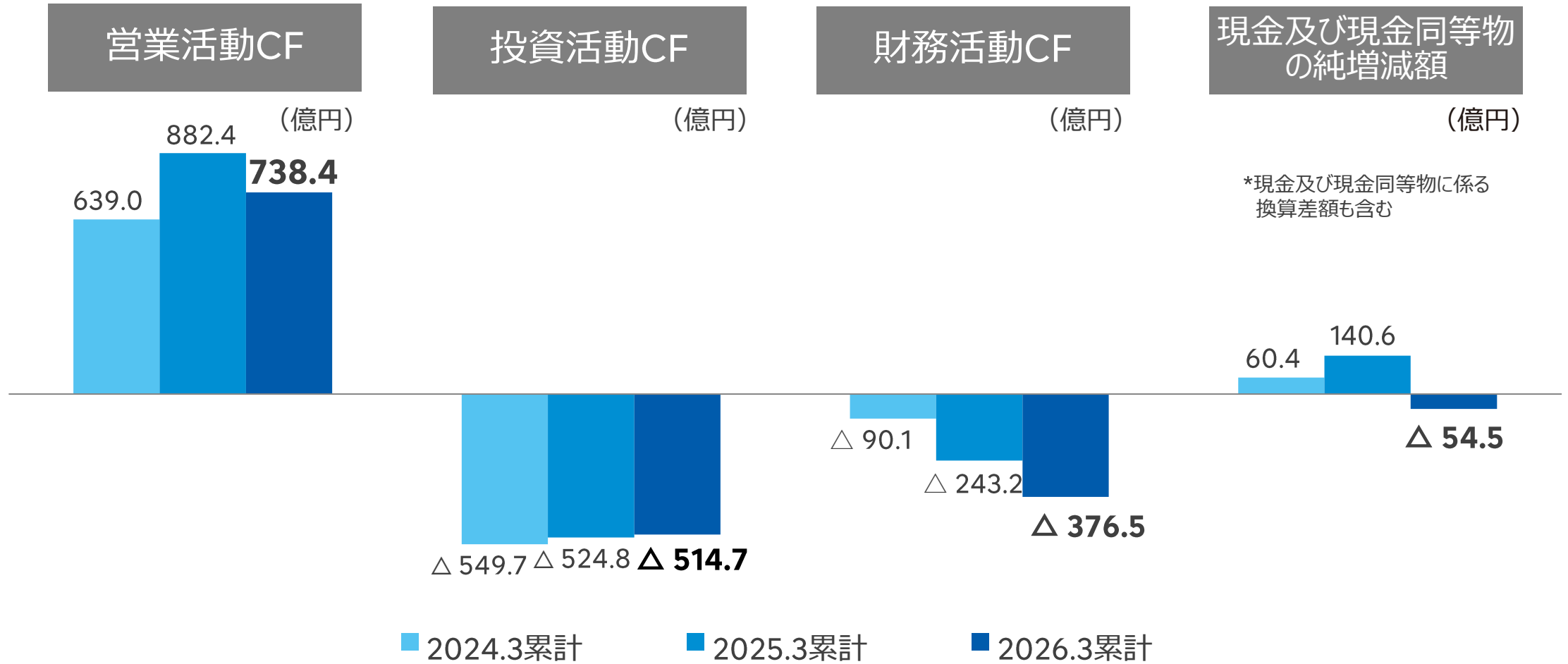
合計：112億円

- ✓ 今後はROIC・IRR・回収期間といった財務規律を、事業特性に応じたハードルレートとして適用し、「選択と集中」の方針に沿った規律ある資源配分を進める

連結財政状態計算書の増減要因



キャッシュフローの推移



2026年3月期配当（案）

累進配当方針を堅持し、期初公表通り
上場30周年の記念配当を含め、年間で前期から+6円（+18.8%）

	中間	期末	年間	配当性向
2025年3月期	15円	17円	32円	37.4%
2026年3月期 （案）	19円	19円※	38円	67.3%

※2026年3月の期末配当は、59期定時株主総会に付議する予定

3. 中期経営計画において重点的に取り組むテーマ

グローバルOEM契約によるEMEA、米州での販売拡大

*2027年3月期業績予想 伸長率 対2026年3月期 (現地通貨ベース)

EMEA

+20%以上*

現状：ドイツのラボチェーンやフランス、スイスなど
多くの大型案件を獲得

今後：機器設置台数増加に伴い試薬売上伸長を見込む



● 大型・新規案件獲得した主な国



全自動血液凝固測定装置
CNシリーズ

米州

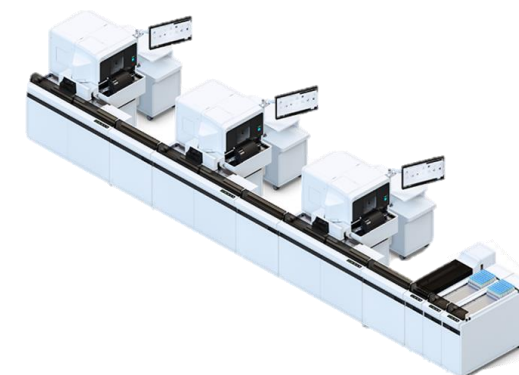
+70%以上*

現状：特殊項目を含む試薬の全項目でFDA承認を取得
幅広い検査ニーズに対応可能な体制を確立

今後：前期に販売開始したCN™-9000を軸に上位市場での
採用拡大を進め、売上成長を加速



血液凝固分野関連試薬

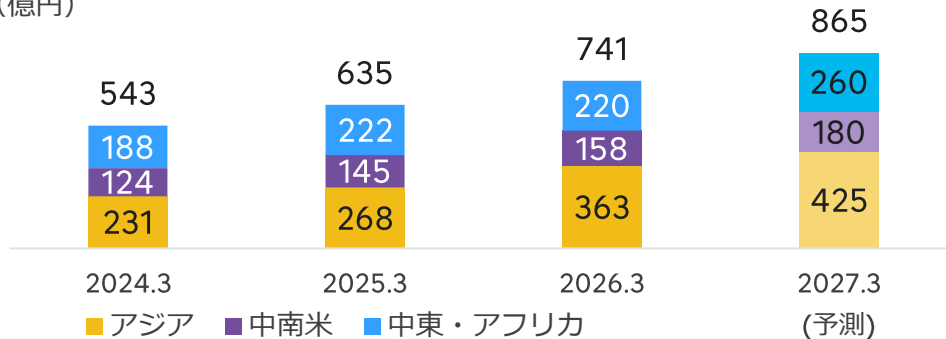


CN-9000 Automated Hemostasis Solution

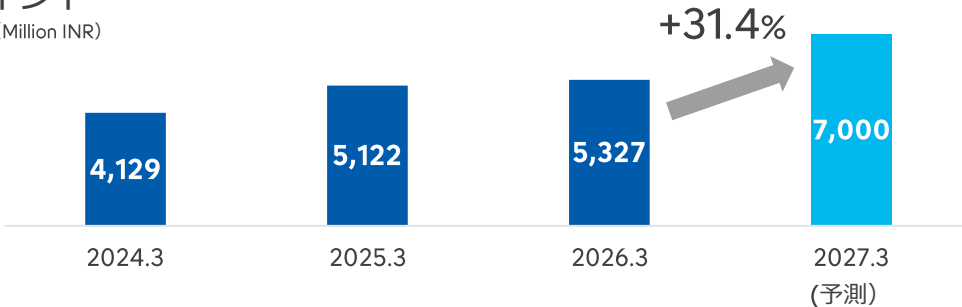
新興国における事業拡大

■ 売上高推移（通期）

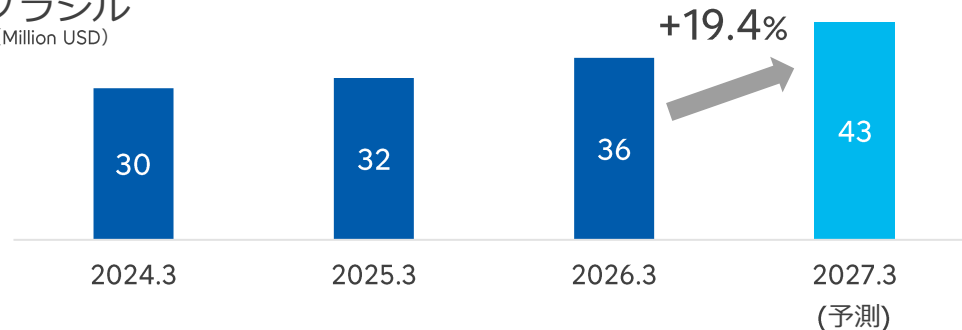
新興国（アジア・中南米・中東・アフリカ）
（億円）



インド (Million INR)



ブラジル (Million USD)



2027年3月期の主な取り組み

● インド：競争優位性の発揮

- ✓ Make in India Class I 製品(XQ™-320)の拡販
- ✓ 戦略モデル、公衆衛生サービス開始の準備



インド市場向け
多項目自動血球計数装置 XQ-320
新機能：貧血分類性能の向上(RUO)

● ブラジル：新工場の着工および尿・凝固分野での成長加速

- ✓ 尿分野：中下位市場への拡大
- ✓ 血液凝固分野：上位市場へのCNシリーズ販売開始
- ✓ ブラジル新工場：試薬安定供給体制の強化

稼働時生産キャパシティ

約2倍



2028年3月期稼働予定 ブラジル新工場完成イメージ

ダイアグノスティクス事業の競争力強化

2026年3月期

2027年3月期

2028年3月期

ヘマトロジー分野

圧倒的なグローバルNo.1へ向け、
フラグシップモデルの投入

XR-1000
(北米)



北米：XN™シリーズからXRシリーズ投入へ



インド：Make in India製品投入
・競争優位性の強化

AI 次世代フラグシップモデルの投入（日本）
・スクリーニングを越えた新たなステージへ



グローバル展開
・圧倒的No.1へ



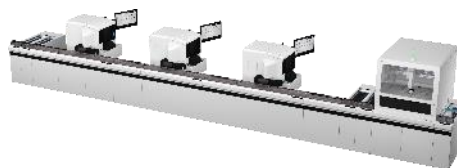
欧州に続き、北米でも特殊項目を含むフルラインナップ展開

血液凝固分野

欧米市場での直販推進により、
試薬売上を拡大し、収益性向上
へ大きく貢献



CNシリーズ
(北米)



欧米での試薬売上伸長スタート



AI 次世代フラグシップモデルの投入
(日本)



グローバル展開



・欧米での自社単独シェア10%以上へ

免疫分野

戦略項目(アルツハイマー病検査
関連パネル含む)を活用した試薬
売上の加速、収益性の改善



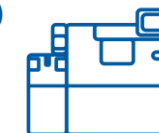
HISCL™-5000
Mid-Scale change
(日本)



プロカルシトニン
試薬等3項目(日本)

Aβ42/40 米国LDTにて提供開始

コンパクトモデルの投入 AI 次世代フラグシップモデルの投入
(日本)



グローバル展開



パネル検査項目のLDT導入に向けた評価
(p-Tau217/p-Tau205/MTBR-Tau)



生化学分野の承継と今後の展開

1. 事業承継と強みの獲得

日本電子株式会社より生化学事業を4月から承継

- ✓ 国内トップシェアの生化学自動分析装置を獲得
- ✓ 検査試薬の微量化および高速検査処理技術の獲得

2. 販売網を活かしたグローバル展開

世界190の国と地域に及ぶ強固な販売ネットワーク

- ✓ **新興国**：基礎的検査（ヘマトロジー・尿）と合わせたパッケージ提案で市場開拓
- ✓ **先進国**：免疫検査と生化学検査をセットにした「血清検査」の提案により免疫検査の拡大を牽引

3. 試薬連携による高収益モデル化

分析装置単体での低収益モデルを改善

- ✓ 試薬メーカーとの協業（OEM供給など）を通じ、**試薬ビジネス**へ転換し、事業拡大と収益性への貢献を狙う

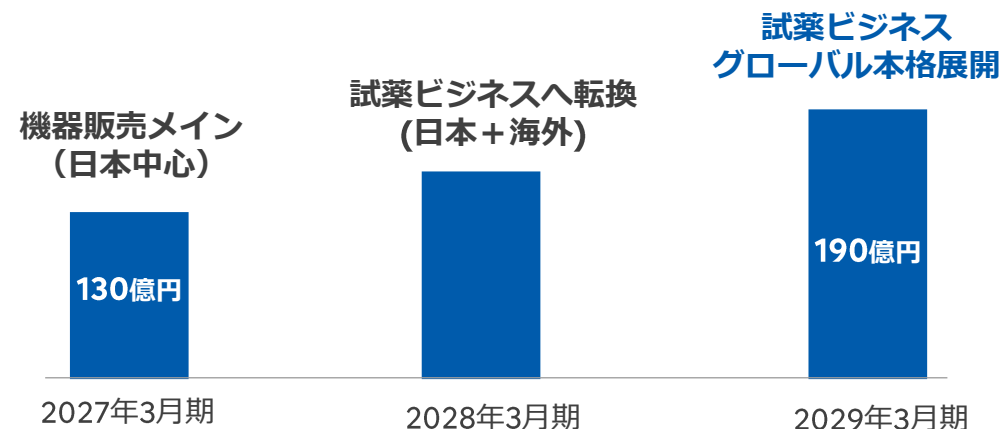
3カ年の展開ロードマップ

項目	2027.3期	2028.3期	2029.3期
機器	既存引継	—	新製品発売
試薬	メーカー交渉	OEM契約	本格提供
地域展開	日本中心	海外展開推進	規模拡大
収益源	機器	機器・試薬	機器・試薬



BioMajesty™ JCA-ZS050

生化学分野 売上成長計画（イメージ）



収益性改善に向けた取り組み

バリューチェーン改革

- ✓ 品目ミックス
- ✓ 試薬の収益向上
- ✓ サプライチェーンの最適化

データ活用の推進

- ✓ 需要予測の精度向上による生産・在庫の最適化
- ✓ デジタル化による業務効率の向上・効果発揮
 - 新規人材獲得の抑制
 - 開発から量産移行へのスピード向上など

収益性・効率性の改善

事業ポートフォリオの見直し

新たな経営体制下での議論・検討をスタート

試薬ビジネス拡大および原価の低減を通じて収益性の改善を実現

品目ミックス改善

- 欧米の血液凝固分野の試薬など利益率の高い製品の比率増加
- 新製品導入に合わせた販売単価の上昇

試薬の収益性向上

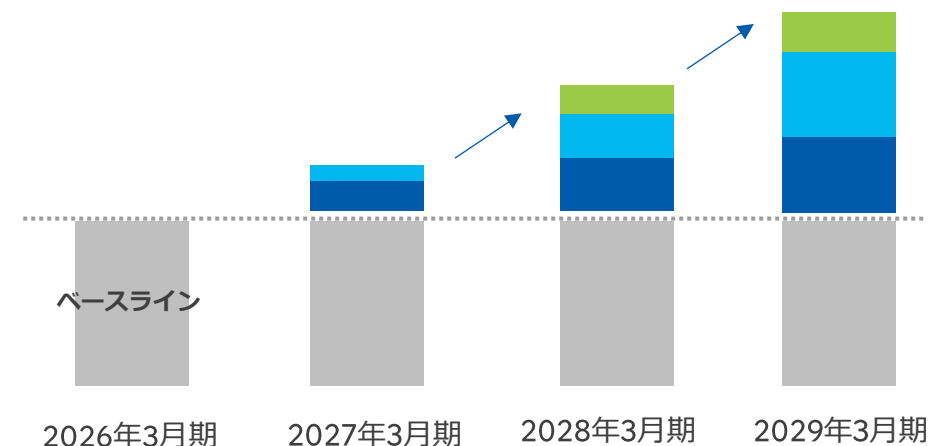
- 原材料内製化（免疫・血液凝固分野）・変更（ヘマトロジー・尿分野）など
- デジタル情報活用による生産性向上（生産スケール最適化含む）

サプライチェーンの最適化

- 試薬の生産拠点・供給体制の最適化などによる、コスト低減

■ 粗利率の改善イメージ

■ 品目ミックス改善 ■ 試薬の収益性向上 ■ サプライチェーンの最適化



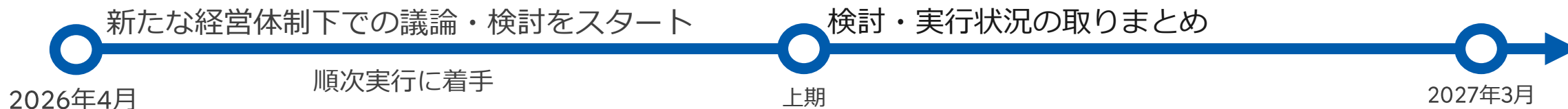
「選択と集中」を徹底し、収益性・資本効率・キャッシュ創出力の改善を図る

目的

- ダイアグノスティクス事業の「強さ」と「稼ぐ力」を再強化
- 利益率、ROE/ROIC、CCC、フリーCFを改善
- 成長軌道へ回帰し、**企業価値向上**へ

原則

- **選択と集中**
- 資源配分は将来的な収益性が高い事業を優先



判断基準

- ✓ 中期経営計画との整合
- ✓ ROIC/IRR、回収期間、追加資本を確認し、事業に応じたハードルレートを設定
- ✓ 市場環境・規制・不確実性も評価

重要事項はタイムリーに開示・アップデート

4. 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想

各地域の成長を軸に中国の不確実性を織り込むも、対前年増収・増益を計画

(億円)	2027年3月期		2026年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	5,350	100.0%	5,000	100%	+7.0%
売上原価	2,670	49.9%	2,443	48.9%	+9.3%
販売費及び一般管理費	1,810	33.8%	1,643	32.9%	+10.1%
研究開発費	300	5.6%	291	5.8%	+2.9%
営業利益	580	10.8%	518	10.4%	+11.9%
親会社の所有者に帰属する当期利益	360	6.7%	354	7.1%	+1.5%

投資計画 設備投資 **480億円** 減価償却費 **470億円**

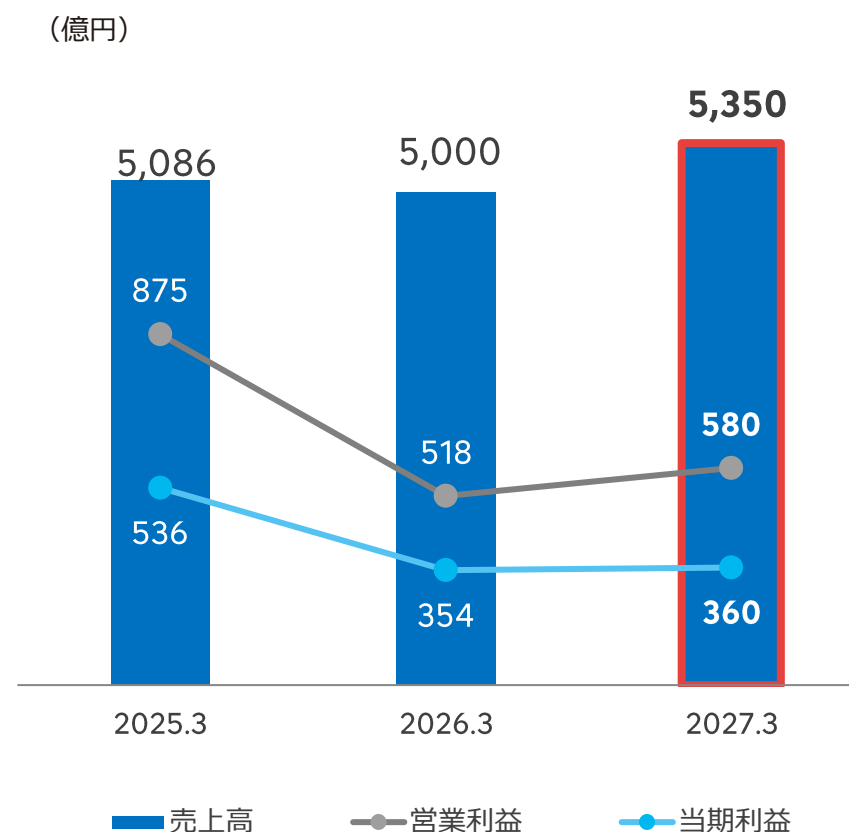
● 想定為替レート

	通期想定	前期実績 (26年3月期)
1 USD	155.0円	150.8円
1 EUR	180.0円	174.8円
1 CNY	22.0円	21.2円

● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	8.3億円	2.1億円
EUR	6.3億円	0.7億円
CNY*	3.2億円	2.3億円

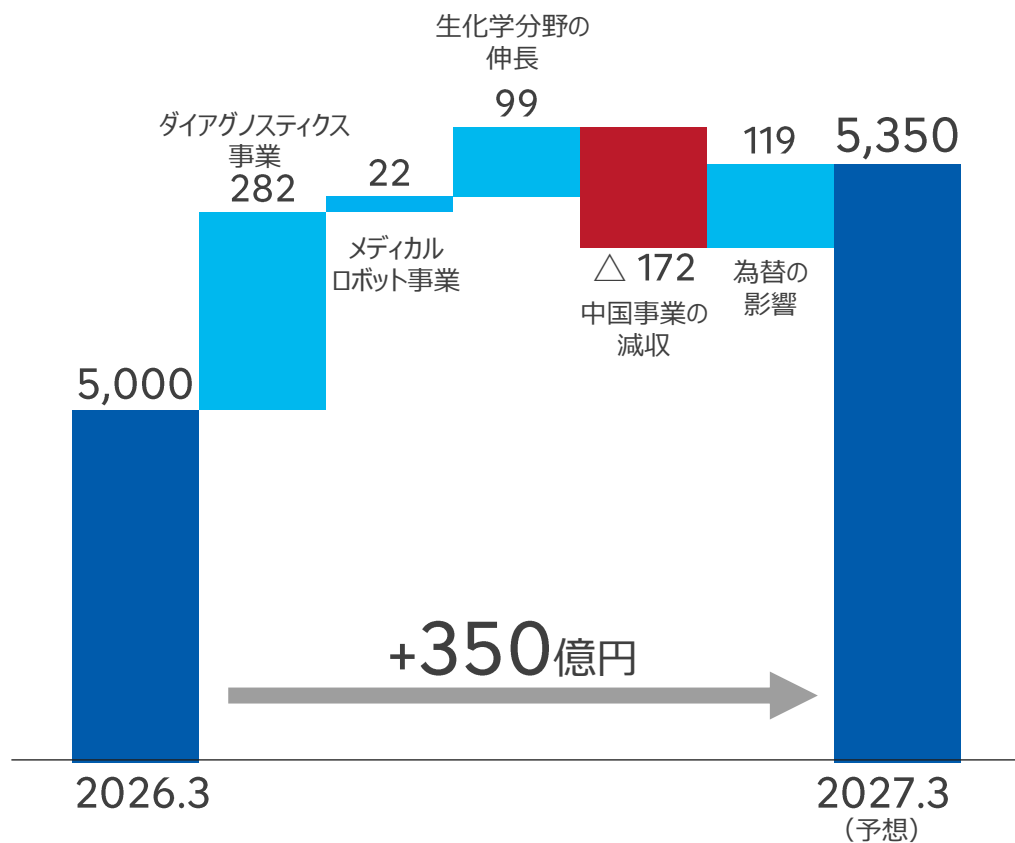
*0.1円変動時



2027年3月期 売上高・営業利益増減要因

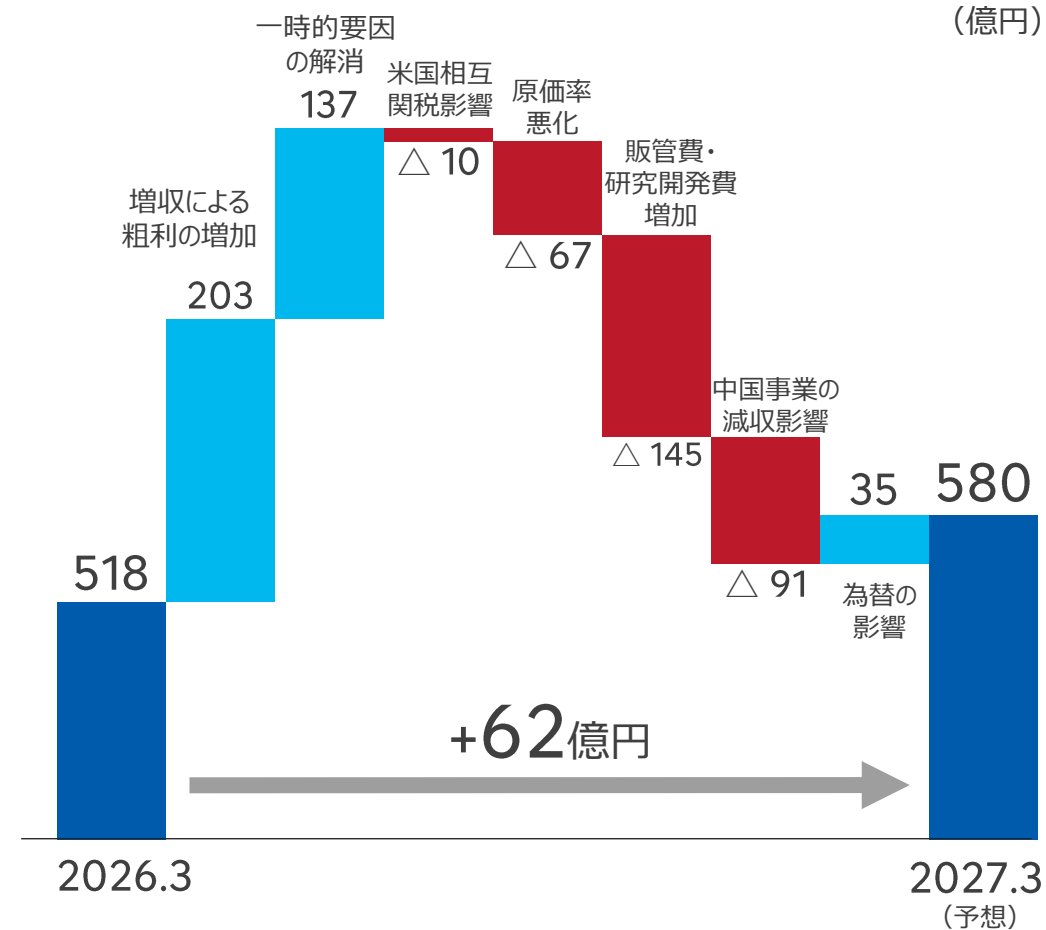
売上高

(億円)



営業利益

(億円)



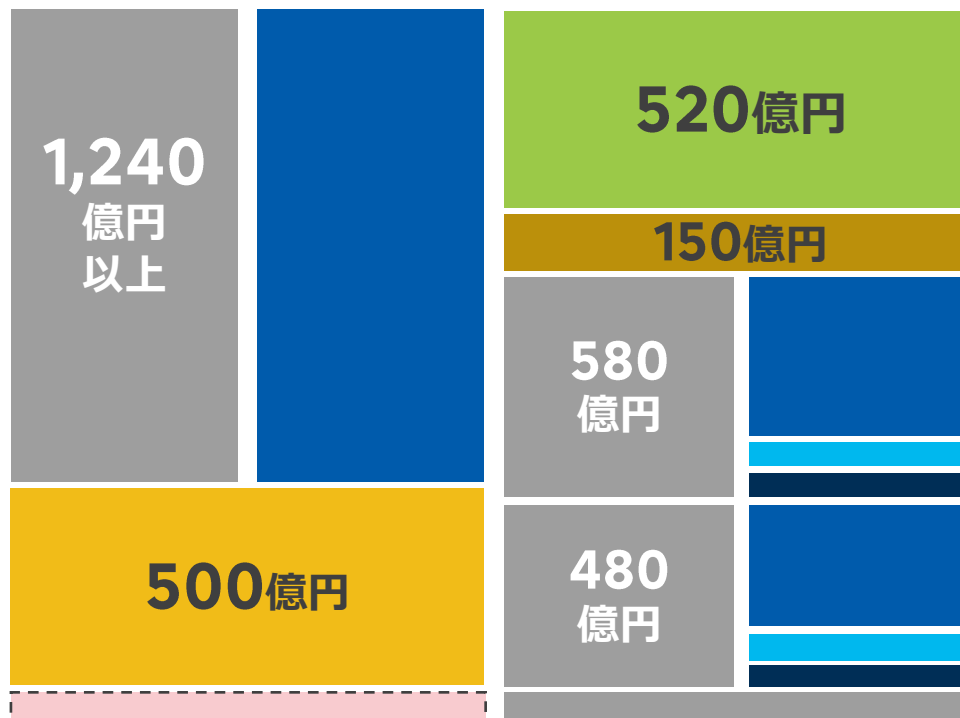
キャピタルアロケーション (2027年3月期イメージ)

営業CF*
「稼ぐ力」で
キャッシュ創出

*研究開発費控除前

**借入など
の積極活用**

事業ポートフォリオの
見直しなど



株主還元

配当性向40%・累進配当の方針継続
+ 自己株買い (上限300億円)

戦略投資

(日本電子事業承継に係る対価支払含む)

事業・R&D

研究開発費 (自己創設無形資産を含む)

設備投資

(拠点整備・リースビジネス拡大)
売上高比率約9%

■ ダイアグノスティクス事業

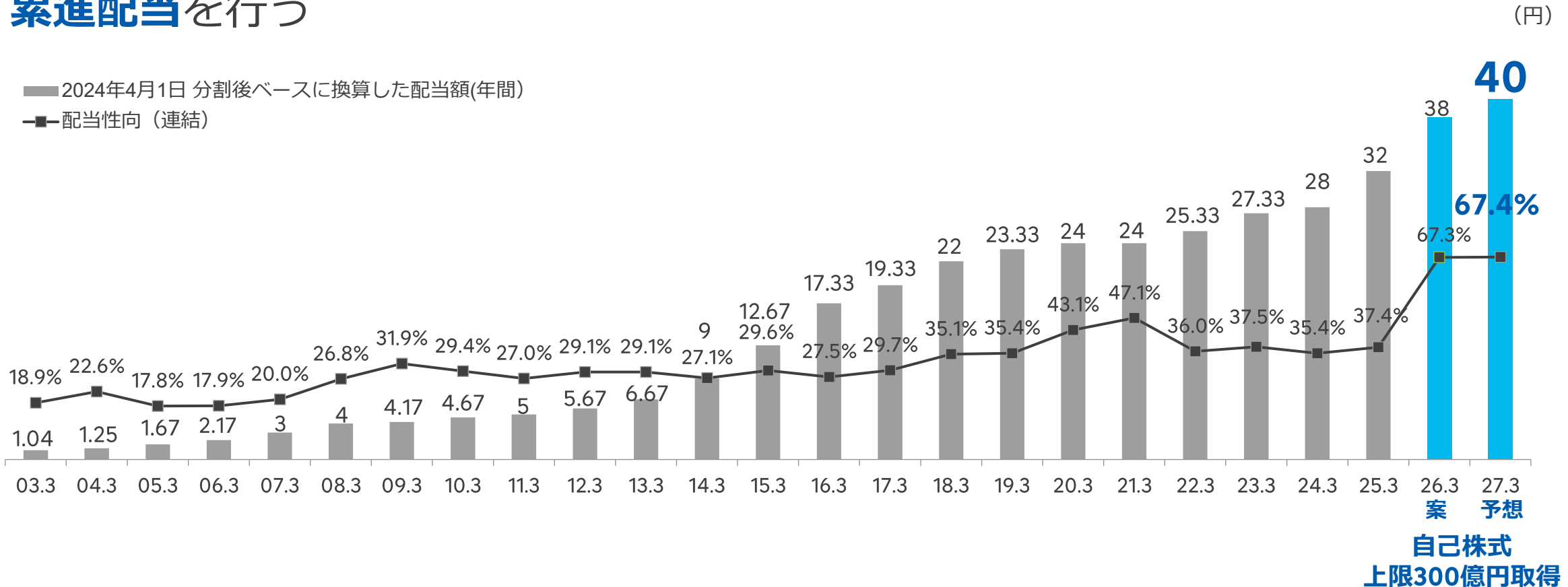
■ メディカルロボット事業

■ 新規技術・事業 (医療DX含む)

ダイアグノスティクス事業へ優先的に配分

2027年3月期 配当予想

株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行う基本方針のもと、連結での配当性向を40%目処に**累進配当**を行う



* 2027年3月期配当性向は、自己株式取得想定を含む会社予想に基づき算出

(補足資料)

2026年3月期 四半期推移実績



(億円)	2026年3月期1Q (4月-6月)		2026年3月期2Q (7月-9月)		2026年3月期3Q (10月-12月)		2026年3月期4Q (1月-3月)	
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比
売上高	1,057.3	100%	1,267.9	100%	1,286.4	100%	1,388.3	100%
売上原価	512.6	48.5%	587.0	46.3%	635.6	49.4%	707.8	51.0%
販売費及び 一般管理費	382.9	36.2%	395.7	31.2%	423.3	32.9%	441.4	31.8%
研究開発費	64.0	6.1%	67.9	5.4%	72.4	5.6%	87.1	6.3%
その他の営業損益	8.6	0.8%	6.0	0.5%	1.9	0.2%	△120.1	—
営業利益	106.2	10.1%	223.2	17.6%	156.9	12.2%	31.7	2.3%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	45.5	4.3%	144.6	11.4%	148.5	11.5%	17.6	1.3%

2027年3月期業績予想（事業・分野別・地域別売上高）



事業・分野別売上高

(億円)	2027年3月期	構成比	前年同期比
FCM分野	70	1.3%	149.2%
尿分野	485	9.1%	110.1%
血液凝固分野	740	13.8%	102.2%
免疫分野	230	4.3%	103.0%
生化学分野	130	2.4%	445.5%
ライフサイエンス	235	4.4%	94.1%
その他	235	4.4%	90.6%
ダイアグノスティクス事業	5,295	99.0%	106.6%
メディカルロボット事業	55	1.0%	166.4%
合計	5,350	100%	107.0%

地域別売上高

(億円)	2027年3月期	構成比	前年同期比	
			円ベース	現地通貨ベース
米州	1,520	28.4%	109.2%	106.3%
EMEA	1,740	32.5%	110.1%	107.1%
中国	750	14.0%	83.8%	81.0%
AP	620	11.6%	113.5%	-
日本	720	13.5%	122.9%	-

トピックス（2025年4月～2026年4月）



ダイアグノスティクス事業

- 「全自動血液凝固測定装置 CN-6000」および「多項目自動血球分析装置 XRシリーズ」が米国FDAより市販前届出のクリアランスを取得（米州）
- ケニアおよびギリシャに現地法人を設立（EMEA）
- インドの新生産拠点が本格稼働、Make in India製品を販売開始（AP）
- 日本電子株式会社の生化学検査事業承継により、ポートフォリオ拡充とグローバル展開を加速
- CNシリーズのコンパクトモデル「全自動血液凝固測定装置 CN-700」を販売開始（日本）
- アルツハイマー病関連、血液中のp-Tau217を測定する研究用試薬を発売

サステナビリティ

- 業績連動型株式報酬制度の導入
- 業界初、試薬容器の水平リサイクルがプラ新法認定
- 業界初のTNFD Adopterとして事業成長と環境負荷低減を両立
- CDP 2025 「気候変動」Aリストに選定
- S&Pグローバル社の「Sustainability Yearbook 2026」で上位1%に選定

Together for a better
healthcare journey